

旧赤松家だより

令和元年 6月 26日



梅雨の晴れ間にのぞく青空に夏らしさが垣間見えます。記念館玄関前のヒマワリも2mほどに育ち、池ではシオカラトンボやショウジョウトンボなどが飛び交っています。

赤松則良は文久2年(1862)から慶応4年(1868)まで幕府の留学生としてオランダに渡っています。その間の慶応3年(1867)にパリ万国博覧会が開催されました。幕府は将軍慶喜の弟、徳川昭武を名代として派遣しましたが、この一行に日本資本主義の父「渋沢栄一」(次期1万円札の肖像画)がいました。

「赤松則良半生談－幕末オランダ留学の記録－」【赤松範一(則良の長男) 編注】に、則良と渋沢栄一の関わりを示す記述があります。

『其頃のこと、私は(略)和蘭留学生と共に巴里に遊んだ。或夜の如きは渋沢(略)等の宿へ集まって語り明かし、夜更けてから最早寝る時間もないと更に深夜の街路を遊学したことがあった』

『渋沢栄一より一行の経費遅着による金策の依頼を受け、オランダ貿易商会の頭取に交渉、5万ドルを借り受け、守備を果たす』



留学生の写真(前列右から2人目が則良)

〈沼津市明治史料館所蔵〉

はるか遠くパリの街でどんなことを語り明かしたのでしょうか。興味が尽きません。

内蔵1階ギャラリーでは、26日から、ワークピア磐田の絵画講座受講生の皆さんによる『火曜日の画家たちの作品展』を開催しています。風景・人物等個性あふれる作品をお楽しみください。

内蔵ギャラリーのご案内

『火曜日の画家たちの作品展』

開催期間：6月26日(水)～7月9日(火)

*休館日 7月1日(月)、8日(月)

開催時間：午前9時～午後4時30分

(最終日は午後2時30分まで)

入場料：無料

出展者：火曜日の画家たち

問い合わせ：旧赤松家記念館 0538-36-0340



〈展示作品から〉